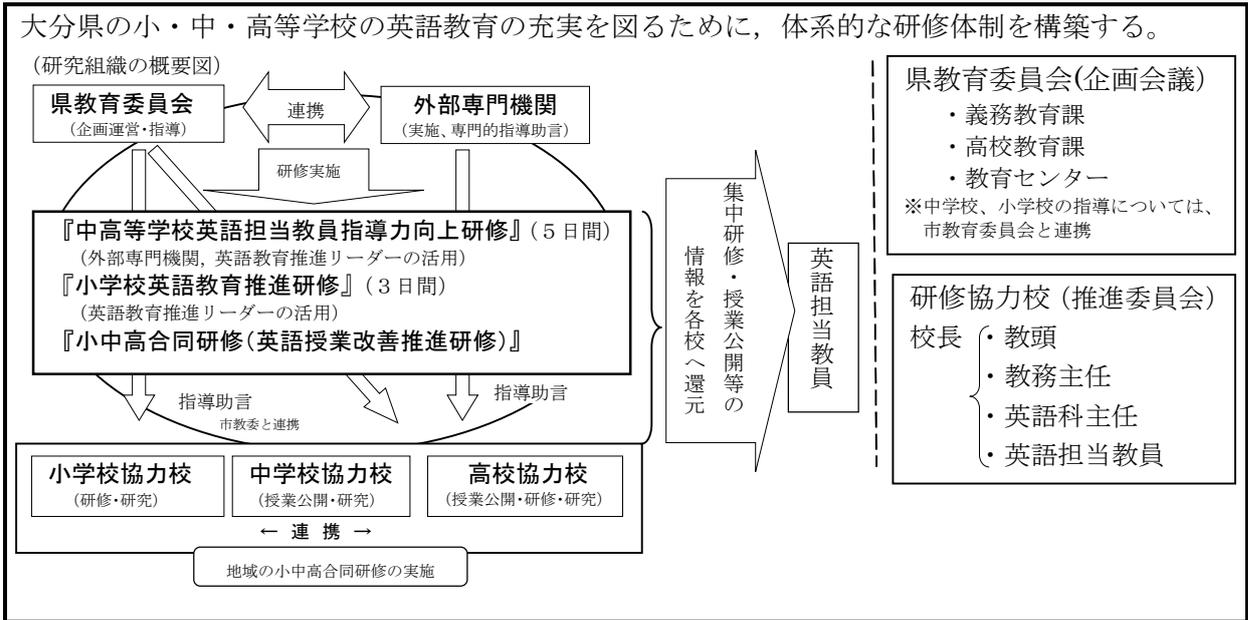


(様式3-2)

大分県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

《本県英語教育の状況(全体)》

- ・「英語の勉強が好き」、「英語の授業がわかる」と答えた生徒の割合
→ 「好き」59.1%、「わかる」65.6% (H29 県学力調査)
 - ・中学校・高等学校の英語担当教員の英語力
→ 国の目標値に達していない (H29 英語教育実施状況調査)
- | | | | |
|---------|-------|-------|-----|
| 本県中学校教員 | 37.3% | 国の目標値 | 50% |
| 本県高校教員 | 69.8% | 国の目標値 | 75% |

《本県英語教育の状況(具体)》

【高 校】(H29 英語教育実施状況調査)

- ① 求められる英語力を有する教師の割合 (%) 69.8%
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) 43.7%
- ③ 学習到達目標の整備状況
設定 (%) 100 %
公表 (%) 39.8%
達成状況の把握 (%) 43.4%
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) 70.4%
※数値は、「コミュニケーション英語Ⅰ」におけるもの

⑤ パフォーマンステスト実施状況(スピーキング)

- ・コミュⅠ 1.54回
- ・コミュⅡ 1.80回
- ・コミュⅢ 1.53回
- ・英 表Ⅰ 0.91回
- ・英 表Ⅱ 1.04回

パフォーマンステスト実施状況(ライティング)

- ・コミュⅠ 0.35回
- ・コミュⅡ 0.48回
- ・コミュⅢ 0.73回
- ・英 表Ⅰ 1.04回
- ・英 表Ⅱ 3.07回

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) 60.9%

※数値は、「コミュニケーション英語Ⅰ」におけるもの

【中学校】(H29 英語教育実施状況調査)

- ① 求められる英語力を有する教師の割合 (%) 37.3%
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) 43.1%
- ③ 学習到達目標の整備状況 設定 (%) 91.1%
- 公表 (%) 12.3%
- 達成状況の把握 (%) 57.0%
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) 81.8%
- ⑤ パフォーマンステスト実施状況(スピーキング) 2.10 回
- パフォーマンステスト実施状況(ライティング) 1.30 回
- ⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) 75.8%

《課題》

- ・求められる英語力を有する中学校・高等学校の英語担当教員の割合は、これまでの研修を通して、着実に向上しているが、国の目標値を達成するために、取組を強化する必要がある。(グローバル化に対応できる人材を育成するため、英語担当教員の指導力向上が引き続き重点課題である)
- ・求められる英語力を有する生徒の割合は、上昇傾向にあるが、一層生徒の英語力を高める必要がある。
- ・学習到達目標については、設定している学校は着実に増加した。今後は各学校が達成状況の把握や公表まで行えるように、実用的・実践的な学習到達目標になるような改善を促していく必要がある。
- ・学習指導要領の趣旨に沿った授業を工夫・改善する必要がある。また、生徒の活動を適切に評価できる仕組みを各学校で構築する必要がある。
(生徒の言語活動の充実、パフォーマンステストの実施、教員の英語使用状況の改善が必要)

《目標管理(全体)》

- ・本県では平成26年10月に「大分県グローバル人材育成推進プラン」を策定し、その中で小中高を通じた児童生徒の英語力や教員の英語指導力向上のため、平成27年度には、有識者や教員からなる「英語教育改善推進委員会」を立ち上げ、本県における児童生徒の英語力の現状と課題を分析し、教員の英語力向上のための方策や「大分県発英語授業モデル」の開発等についても検討を行ってきた。
- ・平成28年3月には「大分県英語教育改善推進プラン」を策定し、以降は、このプランに基づき、大分県の英語教育改善の取組を着実に進めるとともに、その継続的な充実に図ってきた。
- ・昨年度までの取組で、成果は見られたものの国の達成目標を下回っている項目、特に「生徒の英語力」「教員の英語力」については、最重点課題と捉え、今回申請する本事業を活用して最大限の効果を生み出すべく、昨年度以上の目標管理を進めていく。
- ・また、昨年度から実施している、小中高の連携した研修の充実を一層充実させることで、「大分県英語教育改善推進プラン」で掲げた、3つの目標の達成を図りたい。
- ・CAN-DOリストを活用した指導・評価の改善を中高ともに積極的に行うとともに、予定している小中高合同研修の機会を捉え、優れた取組について、その成果を県内に普及させる。また、生徒の到達度を見るため、そして指導と評価の一体化を図るため、効果的な「パフォーマンステスト」の在り方について、指導主事による学校訪問の際に助言を行う。さらに、指導教諭を活用し、近隣の英語教員を招いての授業研究会を実施し、その際に「パフォーマンステスト」の実施例を報告してもらう。

「大分県英語教育改善推進プラン」(H27)

『英語を使って、自分を語り、ふるさとを語る、大分っ子の育成』
を取組方針にした、プランの実行による、目標の達成を目指す。

- I 小・中・高等学校の各学校段階での学習到達目標を明確にする。
- II 教員の英語力・指導力の向上を図る。
- III 目標を達成するために、検証・改善のサイクルを確立する。

≪目標値(具体) H30 目標≫

【高校】

- ① 求められる英語力を有する教師の割合 (%) 75%
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) 50%
- ③ 学習到達目標の整備状況 設定 (%) 100%
公表 (%) 65%
達成状況の把握 (%) 70%
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) 72%
- ⑤ パフォーマンステスト実施状況(スピーキング)
 - ・コミュⅠ 2.0回
 - ・コミュⅡ 2.0回
 - ・コミュⅢ 2.0回
 - ・英表Ⅰ 2.0回
 - ・英表Ⅱ 2.0回
 パフォーマンステスト実施状況(ライティング)
 - ・コミュⅠ 2.0回
 - ・コミュⅡ 2.0回
 - ・コミュⅢ 2.0回
 - ・英表Ⅰ 2.0回
 - ・英表Ⅱ 3.5回
- ⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) 70%

【中学校】

- ① 求められる英語力を有する教師の割合 (%) 38%
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合 (%) 44%
- ③ 学習到達目標の整備状況 設定 (%) 95%
公表 (%) 15%
達成状況の把握 (%) 60%
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%) 80%
- ⑤ パフォーマンステスト実施状況(スピーキング) 3.0回
パフォーマンステスト実施状況(ライティング) 1.5回
- ⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況 (%) 80.0%

(3) 研修の体系と内容の具体

≪計画的な研修の実施≫

1. 研 修：①『英語担当教員指導力向上研修(中、高)』
 ②『小学校英語教育推進研修』
 ③『英語授業改善研修』
2. 目 的：「英語担当教員の指導力・英語力を向上させ、授業を改善・充実することで、生徒の英語力の向上を図る。」
3. 内 容：県教育センター、義務教育課、高校教育課が連携し、立案・実施
 - ①『英語担当教員指導力向上研修(中、高)』
 - ・中学校 50 人、高校 50 人対象
 - ・年間 5 日間（6 月～11 月）実施
 - ・外部専門機関（国内大学、県内大学）と連携した全体研修（午前）
 - ・英語教育推進リーダーを研修講師等として活用した分科会型研修（午後）
 - ②『小学校英語教育推進研修』
 - ・小学校 50 人
 - ・年間 3 日間の集中研修を実施
 - ③『英語授業改善研修』
 - ・小中高の教員対象（150 人）の合同研修として実施
4. 各研修の具体
 - ①『英語担当教員指導力向上研修(中、高)』
 - 【午前：全体研修】
 - ・第 1 回研修：英語教育を取り巻く状況について俯瞰、授業改善指導（元調査官等の大学教授による講演）
 - ・第 2～4 回研修：英語力の向上、外部検定試験の取組に資する研修、英語指導・英語力に関する講義・演習等（第 2 回：中高の連携等に精通した大学教授による、段階的な言語活動をめざす講義 第 3 回：地元大学（APU）准教授兼 TOEFL のトレーナーによる、教員の英語力向上をめざす演習 第 4 回：広島大学教授による、現場の授業実践例を用いての講義）
 - ・第 5 回研修：外部検定試験受験（TOEIC）
 ※招聘講師には、本県の英語教育の取組について事前説明を行い、効果的な指導をいただく。
 - 【午後：中高別研修】
 - ・英語教育推進リーダーを活用した中央研修の還流研修を実施
 - ②『小学校英語教育推進研修』
 - ・小学校担当教員に対し、英語教育推進リーダーを活用した研修を実施
 - ③『英語授業改善研修』
 - ・小中高の担当教員に対し、県の英語教育推進計画等の説明、外部講師による講演、小中高の情報交換会を実施することで、小中高一貫した英語教育を推進
 - ・小規模校や英語教員の配置が少ない学校においては、相互の授業観察や情報交換が十分に出来ていない実態を踏まえ、教員間のネットワークの構築を図る。
 - ・平成 30 年度は「英語による授業の進め方」、「指導と評価の一体化」について協議を深める。
 - ・杵築地域の研修協力校（小中高）における取組・実践事例の発表を行うことで、県内への情報提供を行う。

5. 英語教員の英語力への対応：

- ・求められる英語力を有する担当教員の割合の改善を図るため、上記①の研修修了者に対し、外部検定試験を実施するとともに、個別の受験を促すことで、国の目標値の達成を目指す。

6. 研修の評価方法：（主に①の研修者に対して）

- ・アンケートによる授業改善状況の確認（毎回）
- ・研修終了後に報告書の提出を求め、研修で学び取ったことが授業において効果的に実践されているか否かを確認する。
- ・学校訪問時、研究授業における取組・状況確認（指導主事）
- ・研修協力校における授業改善の状況確認（指導主事、大学教授等）
- ・英語教育実施状況調査における変容確認
- ・研修内容の改善を図りながら、継続的な研修を実施する。

7. 研修計画：

- ・平成30年度まで高等学校全対象者に実施（平成31年度は未受講者対象に実施予定）
- ・平成31年度まで中学校全対象者に実施
- ・平成31年度までに、小学校対象者（230名）に実施

8. 教育委員会による支援：

- ・学校訪問や授業参観による研修参加者の授業改善の把握
- ・授業改善による生徒の変容状況を把握
- ・県ホームページ等を利用した優れた実践についての情報提供
- ・中央研修DVD教材の有効活用

9. 外部専門機関及び研修協力校との関わり：

- ・教育委員会は外部専門機関（大学教授等）と連携し、本県英語教育の現状について情報提供を行うとともに、課題の共有を行う。それを基に事前の打合せ等を入念に行い、真に本県の英語教育の改善に資する研修が実施できるよう工夫する。
- ・これまで、杵築市内の小学校とAPU(立命館アジア太平洋大学)とは連携をしてきたが、今年はより継続的な研修を企画する。
- ・研修協力校（高校）には、組織的な授業改善を指導するとともに、地元大学等からの講師による研修の機会を設定し、専門的な見地から指導助言を受けることで、授業改善を図る。（外部講師を招聘しての研修会2回、指導主事による学校訪問等3回以上実施、小中高と連携した研修会を実施）
- ・研修協力校（中学校、小学校）では、組織的な授業改善を指導するとともに、公開授業等を通して授業改善を図る。（小中高での研修会1回、指導主事による学校訪問等3回以上実施）

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	○（高校）校長会議等での事業説明 ○（中学校、小学校）市町村教育委員会に対して事業説明	
5月	○（高校）学力向上推進会議での事業説明	

6月	第1回英語担当教員指導力向上研修 (午前：講義及び研修、午後：英語教育推進リーダーを活用した研修) 第1回大分県小学校英語教育推進研修 ○(小学校、中学校、高校)協力校訪問指導	大学教授
7月	第2回英語担当教員指導力向上研修 (午前：講義及び研修、午後：英語教育推進リーダーを活用した研修) ○(高校)協力校訪問指導 ○(小学校、中学校)協力校訪問指導 ○(高校)中・高合同公開授業	大学教授、外部検定試験実施機関
8月	第3回英語担当教員指導力向上研修 (午前：講義、午後：英語教育推進リーダーを活用した研修) 第2回大分県小学校英語教育推進研修 大分県英語教育改善推進研修(小中高合同研修)	外部検定試験実施機関等 大学教授等
9月		
10月	第3回大分県小学校英語教育推進研修 第4回英語担当教員指導力向上研修 (午前：講義及び研修、午後：英語教育推進リーダーを活用した研修) ○(小学校、中学校)協力校訪問指導(公開授業)	外部検定試験実施機関及び大学教授等
11月	第5回英語担当教員指導力向上研修 (午前：英語教育推進リーダーを活用した研修、午後：外部検定試験実施) ○(高校)協力校訪問指導 ○(小中高)協力校小中高合同研修	外部検定試験実施(TOEIC受験)
12月		
1月		
2月	○(高校)協力校授業研究会(外部専門機関による研修会)	大学教授等
3月	○研修に係る報告書提出	
【その他の取組】 ○(高校)英語教育研究会等において、本研修の趣旨と達成目標について周知 ○(高校)研修参加者への情報提供やメール送信等によるフォローアップ実施 ○(中学校)指導力向上協議会において、本研修の趣旨と達成目標について周知		

